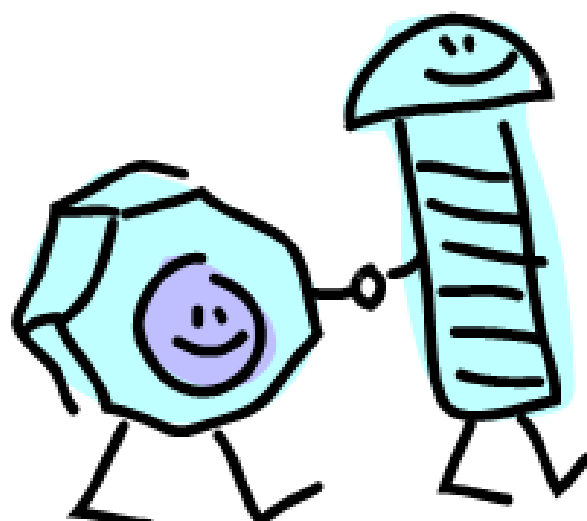


2024年度 環境経営レポート

(対象期間：2024年7月1日～2025年6月30日)



モノづくり応援プロジェクト

作成日：2025年9月22日

改定日：2026年3月10日

小林商工株式会社

目 次

項 目	ページ
1. 組織の概要	1
2. 環境経営方針	2
3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表	3
4. 環境経営目標及びその実績	4-6
5. 環境経営計画及びその評価・次年度の計画	7-9
6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無	9
7. 代表者による全体の見直し・指示	10

1. 組織の概要

- 事業所名及び代表者氏名

小林商工株式会社
代表取締役社長 小林 真一

- 所在地

本 社 : 神奈川県横浜市神奈川区栄町 20-1 YMPF101
いずみ野工場 : 神奈川県泉区和泉中央北5-25-18

- 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 永吉 正人 TEL : 045-620-5368 FAX : 045-620-5182
Eメール : nagayoshi@kobasho.co.jp

担当者 : 同上

- 事業活動の内容

鋸螺及び関連部品の製造・販売、通信及び光学機器用精密部品の製造・販売

- 事業の規模

主要製品の売上高 35,850 万円 / 2024 年度

	本社	いずみ野工場		
従業員数	13.5 名	5.5 名		
延床面積	123.57 m ²	300.24 m ²		

□ 対象範囲

当社は全組織・全活動及びその全従業員を対象としています。

2. 環境経営方針

〈環境経営理念〉

小林商工株式会社は、鋳螺及び関連部品の製造・販売、通信及び光学機器用精密部品の製造・販売を通じてお客様の要望に応え地域社会から信頼される企業を目指します。同時に、事業活動を展開することは環境への負荷をもたらすものであり、広く環境対策に取り組むことが重要であると考えています。

このような認識のもと、全ての事業活動を通じて継続して温室効果ガス削減をはじめとする環境保全対策に取り組むとともに省資源対策にも取り組み、持続的な発展が可能な社会づくりに貢献していきます。

〈基本方針〉

環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境経営の継続的改善を図りながら、下記事項に取り組みます。

1. 節電と化石燃料の節約を進め、二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化防止に努めます。
2. 省資源による仕事を進めるように努め、廃棄物の発生量を低減します。
3. 節水に努め、水使用量を低減します。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. 環境に配慮した鋳螺並びに関連部品の製造、販売に努めます。
6. グリーン購入を推進することにより、環境に配慮した調達を進めます。

社内要所に環境経営方針を掲示し、全従業員にエコアクション 21 環境経営方針を周知します。

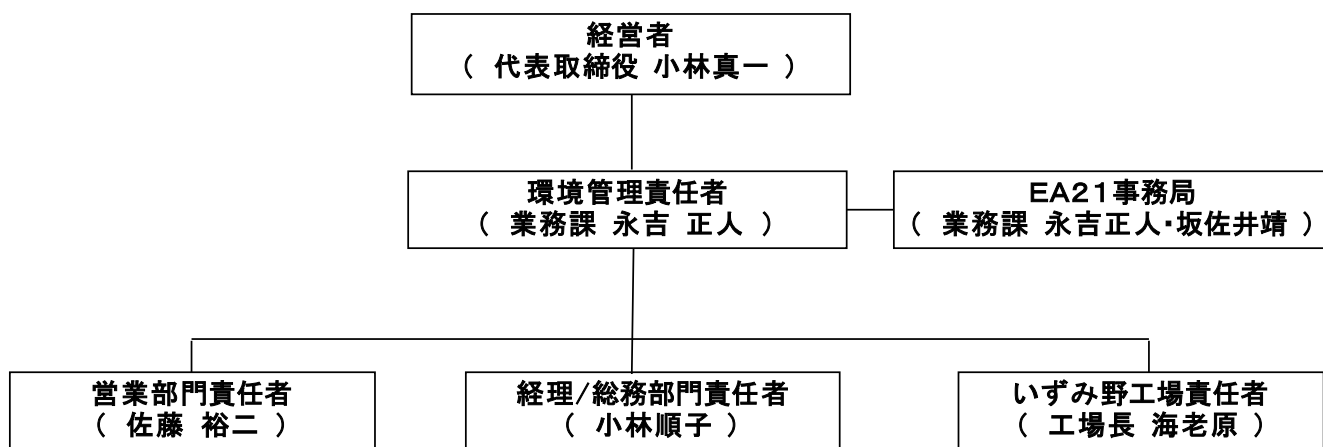
制定日 2018年7月23日

小林商工株式会社

代表取締役 小林 真一

3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

環境経営実施体制表



対象者	役割、責任及び権限
代表者	1. 取り組みの対象組織・活動の明確化 (要求事項1) 2. 代表者による経営における課題とチャンスの明確化(要求事項2) 3. 環境経営方針の策定、全従業員に周知 (要求事項3) 4. 実施体制の構築(要求事項7) 5. 代表者による全体の評価と見直し・指示(要求事項14) 6. 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 (EA21事務局)	1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価(要求事項4:事務局担当) 2. 環境関連法規の取りまとめ(要求事項5:事務局担当) 3. 環境経営目標及び環境経営計画の策定(要求事項6) 4. 環境コミュニケーションの実施(要求事項9) 5. 取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防(要求事項13) 6. 文書類の作成・管理(要求事項12:事務局担当) 7. 環境経営レポートの作成・公表(事務局担当)、確認(環責)
部門責任者	1. 教育・訓練の実施(要求事項8) 2. 実施及び運用(要求事項10) 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応(要求事項11)
全従業員	1. 環境経営方針の理解及び環境問題の現状と環境への取組の重要性の認識 2. 環境経営目標、環境経営計画などに基づくEA21活動の実施 3. EA21活動に関する提案

(回覧ルート)

社長→環境管理責任者→EA事務局→部門責任者

改版履歴

版数	改定理由	改定月日	承認	作成者
1	営業部門及びいずみ野工場の責任者変更の為	2022/7/15	友井	永吉
2	環境管理責任者変更の為	2025/7/1	友井	永吉

4. 環境経営目標及びその実績

4-1. 環境経営目標(本社)

	基準年度	2024年度	2025年度	2026年度
1.二酸化炭素排出量削減				
・電気 総量 (kg-CO2)	4,087	1%削減	2%削減	3%削減
・電気 原単位 (kg-CO2/万円)	0.140	1%削減	2%削減	3%削減
・ガソリン (kg-CO2)	26,438	7%削減	8%削減	9%削減
・都市ガス (kg-CO2)	758	7%削減	8%削減	9%削減
・CO2合計 総量 (kg-CO2)	31,283	1%削減	2%削減	3%削減
・CO2合計 原単位 (kg-CO2/万円)	1.072	1%削減	2%削減	3%削減
2.廃棄物排出量削減				
・一般廃棄物 (kg)	532	7%削減	8%削減	9%削減
3.水使用量削減 (m ³)	73	現状維持		
4.ROHS対応品販売 (%)	84.7	7%増加	8%増加	9%増加
5.グリーン購入 (%)	38.9	実績把握	実績把握	実績把握

※基準年度は、電気2023年度 ガソリン2017年度 都市ガス2017年度 一般廃棄物2017年度
水使用量2023年度 ROHS販売率2018年度 グリーン購入2017年度を採用した。

※CO2排出係数は、2022年東京電力Iパワーエナジー(株)の調整後排出係数0.376Kg-CO2/kWhを使用した。

4-2. 環境経営目標(いずみ野工場)

	基準年度	2024年度	2025年度	2026年度
1.二酸化炭素排出量削減				
・電気 総量 (kg-CO2)	36,210	1%削減	2%削減	3%削減
・電気 原単位 (kg-CO2/万円)	4.733	1%削減	2%削減	3%削減
・液化石油ガス (kg-CO2)	256	6%削減	7%削減	8%削減
・CO2合計 総量 (kg-CO2)	36,466	1%削減	2%削減	3%削減
・CO2合計 原単位 (kg-CO2/万円)	4.766	1%削減	2%削減	3%削減
2.廃棄物排出量削減				
・一般廃棄物 (kg)	190	210以下	210以下	210以下
3.水使用量削減 (m ³)	169	現状維持		
4.化学物質適正管理 (kg)	792	594以下	594以下	594以下
5.製造不良数改善 (件)	13	10件以下		
6.グリーン購入 (%)	38.9	実績把握	実績把握	実績把握

※基準年度は、電気2023年度 液化石油ガス2017年度 一般廃棄物2022年度 水使用量2018年度
化学物質管理2018年度 製造不良数2018年度 グリーン購入2017年度を採用した。

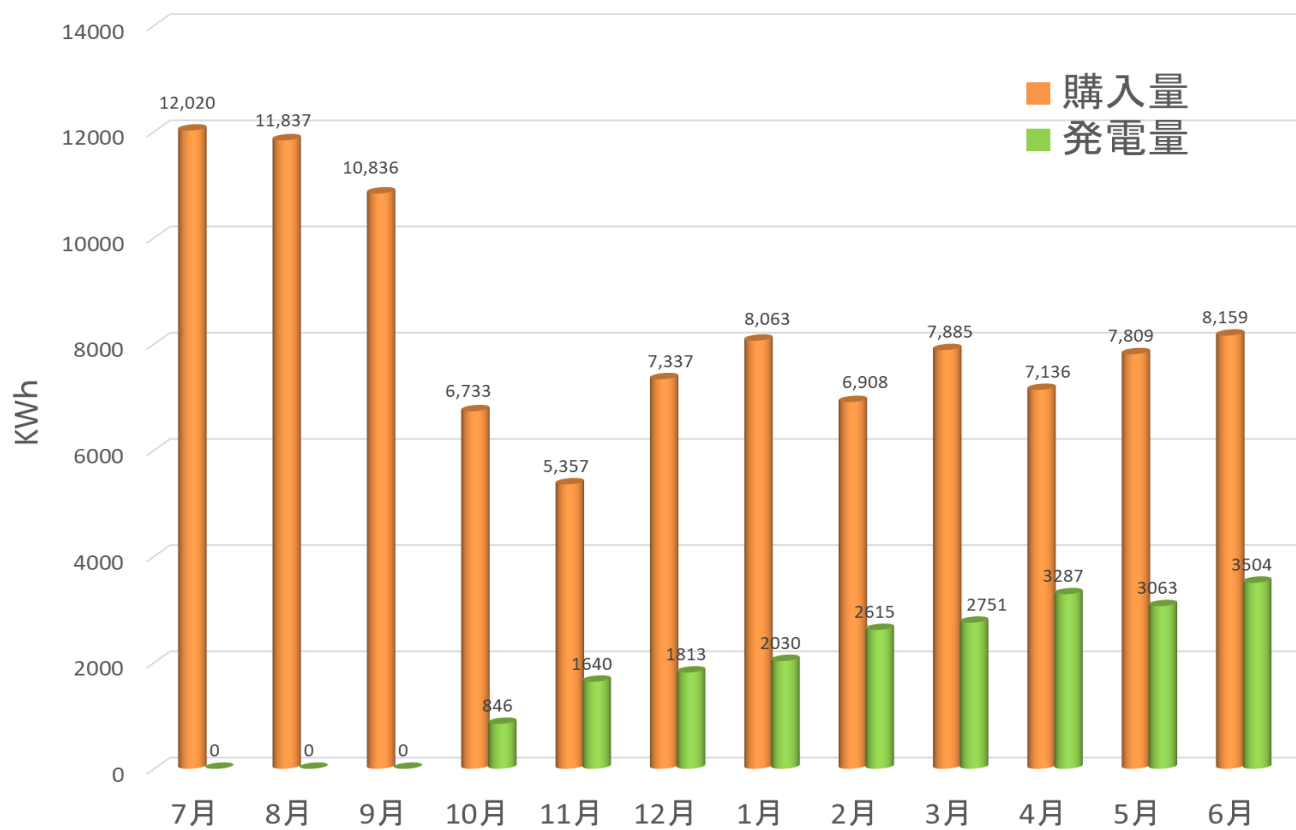
※CO2排出係数は、2022年東京電力Iパワーエナジー(株)の調整後排出係数0.376Kg-CO2/kWhを使用した。

4-3.運用結果（2024年度）

		基準年度	目標	実績	評価
1.二酸化炭素排出量削減					
• 電気総量 (kg-CO2)	本社	4,087	1%削減	4,140	×
	いずみ野工場	36,210	1%削減	37,630	×
• 電気原単位 (kg-CO2/万円)	本社	0.140	1%削減	0.115	○
	いずみ野工場	4.733	1%削減	4.138	○
• ガリリ (kg-CO2)	本社	26,438	7%削減	21,989	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
• 都市ガス (kg-CO2)	本社	758	7%削減	449	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
• 液化石油ガス (kg-CO2)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	256	6%削減	173	○
• CO2合計 総量 (kg-CO2)	本社	31,283	6%削減	26,578	○
	いずみ野工場	36,466	5%削減	37,803	×
	会社全体	67,749	6%削減	64,381	△
• CO2合計 原単位 (kg-CO2/万円)	本社	1.072	1%削減	0.741	○
	いずみ野工場	4.766	1%削減	4.157	○
	会社全体	5.838	1%削減	4.898	○
2.廃棄物排出量削減					
• 一般廃棄物 (kg)	本社	532	7%削減	504	△
	いずみ野工場	190	210以下	208	○
3.水使用量削減 (m ³)					
	本社	73	現状維持	69	○
	いずみ野工場	169	現状維持	135	○
4.化学物質適正管理(kg)					
	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	792	594以下	594	○
5.ROHS対応品販売 (%)					
	本社	84.7	7%増加	90.9	△
	いずみ野工場	-	-	-	-
6.製造不良数改善 (件)					
	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	13	10件以下	7	○
7.グリーン購入 (%)					
	本社	38.9	実績把握	19.9	-
	いずみ野工場				

○目標達成 △目標未達成但し基準年度より改善 ×目標未達成

4-4.太陽光発電システム



いずみ野工場 電気購入量と発電量



いずみ野工場に設置した太陽光パネル

5. 環境経営計画及びその評価と次年度の取組内容

5-1.環境経営計画及びその評価

環境経営計画	取組結果	評価
二酸化炭素排出量削減(電気)		
本社		
①空調温度の適正化(冷房:26℃ 暖房:20℃)	室温管理を徹底でき効果は大きかったと思われる。	○
②IAQフィルター-の定期清掃	フィルター-清掃だけではなく、専門業者によるIAQ本体のクリーニングも行った。	○
③ケルビス®の実施	ケルビス®は9月一杯実施した。	○
④外出時はパソコンの電源をOFF	徹底して実施する事が出来た。	○
⑤昼休みの消灯	EA事務局が率先して消灯した。	○
⑥遮熱シート-の設置	遮熱効果により冷房の使用を控えることができた。	○
いすみ野工場		
①太陽光発電システム-の導入と運用	太陽光発電によるCO2削減効果は大きかった。	○
②空調温度の適正化(冷房:25℃ 暖房:20℃)	室温管理を徹底できた。	○
③照明のこまめなスイッチ-のON・OFF	作業の際不要な照明をこまめにOFFにした。	○
④残業及び休日出勤-の削減	休日出勤を削減する事が出来たが 残業はまだ削減の余地がある。	△
二酸化炭素排出量削減(ガソリン)		
本社		
①IJDドライブ®の実施	手順書を営業車に載せて意識を徹底した。	○
②荷物を積む際のアイドリング®の実施	アイドリング®の実施を徹底出来た。	○
③車両以外の交通手段-を併用	公共交通機関の使用は少なかった。	△
二酸化炭素排出量削減(都市ガス)		
本社		
①4~10月は使用しない	4~10月は未使用だった。	○
②IJ運転機能-を使用する	使用の際はIJモードで使用了。	○
二酸化炭素排出量削減(液化石油ガス)		
いすみ野工場		
①夏は使用をなるべく控える	夏場の使用量が大幅に削減できた。	○
②最低温度に設定する	最低温度に設定した	○
廃棄物排出量の削減		
本社及びいすみ野工場		
①ビニ-用紙の裏紙を使用	EA取組前から実施。	○
②会議資料は紙ではなくデータ-で共有する。	会議に使用する紙の削減に効果があった。	○
③メール・クラウド®を積極的に利用し紙の削減	会社全体でクラウド®を有効活用できている。	○
水使用量の削減		
本社		
①手洗い等の使用の際、水を流しっぱなしにしない	目につくような無駄な使用はなかった。	○
いすみ野工場		
①節水ホ-スター-の掲示	流し場に節水ホ-スター-を掲示した。	○
②節水意識の徹底	節水を徹底して行う事が出来た。	○
化学物質適正管理		
いすみ野工場		
①SDSの取り寄せ	SDSを取り寄せ工場にて保管	○
②使用量を控える	生産量が増えている為、使用量の削減ができなかった。	×
③溶剤の再利用	溶剤が汚くなるまで再利用した。	○
④全廃に向けての対策を検討	ゼロファインとメルククリア®を併用する事が出来た	○
ROHS対応品販売促進		
本社		
①切替推奨パ-ソレットを作成し客先に配布	パ-ソレットは行き届いており、HP上でも公開している。	△
製造不良数改善		
本社及びいすみ野工場		
①フィードバック票-を運用する。	運用する事が出来た。	○
グリーン購入		
本社及びいすみ野工場		
①グリーン購入の切替推進	JSTトップ®を考慮し積極的な切替には至らなかった。	△

○:達成 △:一部未達成 ×:未達成

5-2. 次年度の取組内容

5-2-1. 二酸化炭素排出量削減

- 電気 本社は目標未達成かつ基準年度よりも増加。
売上増による残業時間の増加や人員の増加が原因。
電気使用量は増えているが、売上高の大幅な増加により原単位目標は達成。
来年度も原単位削減と併用して総量削減に努める。
いずみ野工場は目標未達かつ基準年度よりも増加。
NC 自動旋盤の増設及び生産高の大幅な増加が原因の為、来年度は基準年度を 2024 年度に変更する。
機械増設により生産高が増加している為、原単位目標は達成。
来年度も原単位削減と併用して総量削減に努める。
デマンド管理を導入してピークデマンドを監視。
デマンド目標値を超えそうになると工場内に警報で通知、
一時的な電気使用量の増加を防ぐ効果が期待できる。
太陽光発電システムの運用を開始した。二酸化炭素排出量の削減効果が期待できる。
- ガリソ 目標を達成。継続して削減に努める。
- 都市ガス 目標を達成。継続して削減に努める。
- 液化石油ガス 目標を達成。夏の使用量を大幅に削減できた。継続して削減に努める。

会社全体としての二酸化炭素排出量について、基準年度よりは削減できたが、目標は未達だった。機械の増設及び売上高や生産高が増加している事が原因。原単位の削減は出来ている為、来年度も総量削減と原単位削減を併用する。

5-2-2. 廃棄物排出量削減

本社は目標未達。事務所のレイアウト変更により一時的に排出量が増加した。
いずみ野工場は目標達成。
会議では紙の資料を使用せず、ｸﾞﾗﾌﾞ を有効活用できている。
会社全体のﾊﾟｰﾊﾟｰ-ﾘｻｲｸﾙが進んでいる。取組は継続して実施する。

5-2-3. 水使用量の削減

本社は及びいずみ野工場で目標達成。
次年度も取組を継続する。

5-2-4. 化学物質適正管理

目標達成。代替品の ` ` と ` ` を併用している。

5-2-5. ROHS 対応品販売促進

目標未達。これ以上の切替促進は難しいと判断。来年度は目標値を変更する。

5-2-6. 製造不良数改善

目標を達成。継続してフィードバック票を活用する。

5-2-7. グリーン購入の推進

ｸﾞﾘｰﾝ等も考慮し無理のない範囲で取組を継続する。



デマンド管理①

デマンド値や電気使用量を管理



デマンド管理②

デマンド設定値を超えると警報で通知

6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無

区分	環境関連法規等名称	遵守状況 確認・評価
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) (一般廃棄物の処理)	○
化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善 の促進に関する法律 (P R T R法) SDS制度	○
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	○
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	○
大気汚染	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	○

当社に關係する環境関連法規などは上記の通りですが、遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

7.代表者による全体の評価と見直し・指示

弊社は環境への取組をより効果的に推進する事を目的にエコアクション 21 認証を継続し、今年度で 7 年目を迎えました。持続可能な社会の実現に向け引き続き積極的に環境保全活動を進める事が出来ました。しかし、売上高及び生産量の増加に加え、NC 自動旋盤の増設や地球温暖化の影響による夏季の猛暑も重なり、電気使用量の目標達成には至りませんでした。一方で、売上高に対する原単位目標は本社・工場共に達成しており、生産効率の向上といずみ野工場の太陽光発電による CO2 削減効果を評価しております。事務所のレイアウト変更に伴う廃棄物の増加や ROHS 対応切替の停滞が課題として挙げられました。現状の課題について下記の通り指示しました。

- 電力使用量の管理：電力使用のピーク値を監視し設定値の超過時に警報で通知する「デマンド管理」を導入し、一時的な電力急増を防ぐこと。
- 管理指標の多角化：「総量削減」と「売上高原単位」の使用を併用し、事業成長と環境負荷低減を両立させること。
- 目標の適正化： 継続が困難な ROHS 対応販売率の目標値を見直すこと。
廃物排出量削減の為にペーパーレス化を継続すること。

環境意識を一層高めるため、定期的な会議においてエコアクション 21 の方針に沿った議論を継続するとともに、地域貢献活動を通じて社会全体の環境意識向上にも取り組みます。今年度も一定の成果を得ることができましたが、引き続き改善すべき点が残されております。今後も全社が一体となって社会的責任を果たすべく、エコアクション 21 の取組をさらに推進してまいります。